



アグリカレッジ福島

福島県農業総合センター農業短期大学校

次世代の農業担い手育成の取組

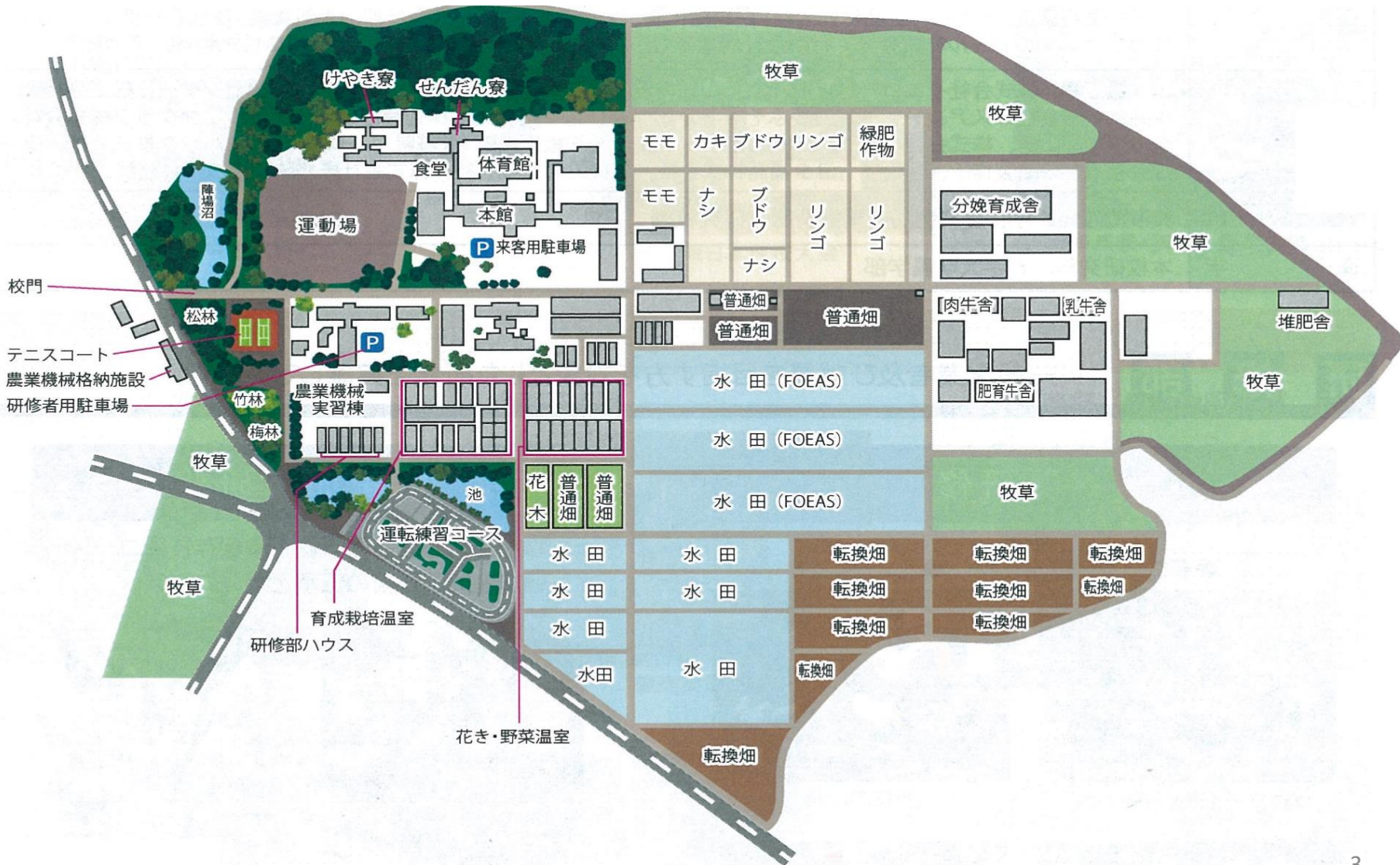


学校の位置



アグリカレッジ福島

施設・配置



②環境制御型ハウス群
《野菜・花き経営学科》

⑤学習環境の整備
大型スクリーン
校内農産物直売所

③ブドウ・ナシ園の整備
省力栽培体系・ハウス栽培
光センサー
《果樹経営学科》

①地下水位制御システム (FOEAS)
《水田経営学科》

④畜舎・パドックの整備
自家配合飼料給与体系
《畜産経営学科》

教育目標

実践的な農業の技術力と経営力を備えた
地域のリーダーとなる農業者
を養成する。



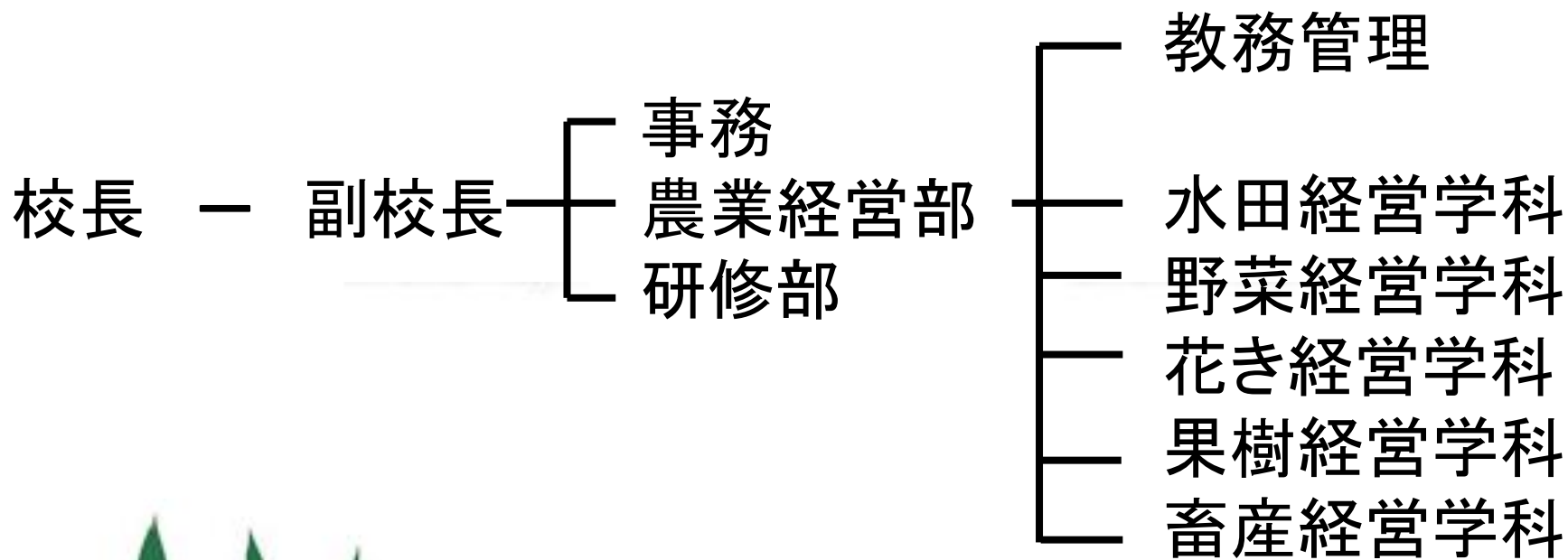
教育の方向

県内唯一の農業者教育施設として開校

- 1 農業経営の実践に必要な知識及び技術に関する教育を行う
- 2 地域をリードする農業経営者に必要となる経営管理に関する教育を行う
- 3 国際的な視野に立ち農業情勢の変化に対応できる農業経営に関する教育を行う



組織



学生内訳

【令和5年度】

①出身高等学校過程別

	人数
農業課程	60名
普通課程	32名
実業課程	4名
その他	8名
計	104名

②農家・非農家

	人数
専業農家	19名
兼業農家	18名
非農家	67名
計	104名

③出身地域別

区 分		人数	区 分		人数
県 内	県北	25名	県 内	南会津	2名
	県中	23名		相 双	7名
	県南	18名		いわき	6名
会津		15名	県 外		8名

学生数
()内は女子

	計
1年	59(11)名
2年	45(14)名
計	104(25)名

教育の特色

経営シミュレーションによる 総合的な実践力の習得

現場の課題から卒業論文テーマを設定し、自ら生産から販売まで一連のプロジェクトとして取り組み、経営シミュレーションの手法も取り入れながら総合的な農業経営を実践する力を習得します。

学部と経営学科

農業経営部

- 水田経営学科
- 野菜経営学科
- 果樹経営学科
- 花き経営学科
- 畜産経営学科



水田経営学科

水稲・麦・大豆・ソバ等の基本的な栽培管理技術や省力・低コスト技術について学習します。

野菜経営学科

施設・露地栽培で実際に安心・安全な作物を栽培し、その技術について学習します。（30数品目を栽培）

果樹経営学科

福島県の主力果樹であるモモ・ナシ・リンゴなど全5種果樹の省力化安定生産技術について学習します。

花き経営学科

キクなどの開花調節や省力化、切り花の高品質保持等の生産・管理技術、シクラメン等鉢物生産について学習します。

畜産経営学科

乳用牛・肉用牛の基本的な飼養管理に関する知識と技術について学習します。

全学科に責任分担管理体制を導入

学生ごとに担当する農場区画、ハウス、家畜等を割り当てて生産管理を行う実践的就農シミュレーションを導入

学習内容

教養科目

11科目

講義225時間

専門科目

共通21科目

講義525時間

実習135時間

各科15科目

講義255時間

実験30時間

実習1440時間

GAP・スマート農業の実践

- 第三者認証GAP：JGAP（H30.5～）認証取得
FGAP（R3.3～）認証取得
 - 認証品目：穀類 米(玄米)、そば、小麦(新規)
青果物 トマト、きゅうり、カキ、ブドウ
 - GAP指導員等資格試験の受験
-
- スマート農業の実践に向けた新カリキュラム（R4年度の入校生からカリキュラム化）
 - スマート農業に関する知識と最新機器に関する技能習得
 - ほ場管理システム、ドローン（散布、空撮、リモートセンシング）、オートトラクタ、リモコン除草機等の整備

免許・資格

- 卒業時に「専門士」の称号
- 県職員採用時に「短大卒」の資格
- 4年制大学の編入学試験が受験可
- 資格取得

大型特殊免許、けん引免許、簿記3級、
毒物劇物取扱者、日本農業技術検定、
土壌医検定、家畜人工授精師（畜産
経営学科のみ）等

卒業生の進路（令和4年度）

就農

自家就農・法人就農・研修
(9) (11)

42%

就職

農業協同組合・農業団体
関連産業・公務員・他産業

56%

(補足) 研修部が行う農業研修

★ 一般農業者及び就農を目指す方を対象とした研修を実施しています。

① 就農研修
(初級)

② 就農研修
(中級)

③ 長期
就農研修

④ 農産加工
研修

⑤ 農業機械
研修